

2016年11月26日 東村山市太陽会セミナー原稿

## 世界に広がるSGI (Soka Gakkai International)

### インド広布の進展を目の当たりにして

皆さんおはようございます。支援活動など第二総東京でNo.1とも言われている東村山の太陽会の集いにお招きいただきありがとうございます。地元昭島も頑張っておりますが東村山の皆様にはとてもかないません。

最初に簡単な自己紹介をさせていただきます。青梅線の昭島に住んでおりまして、20歳で入会してちょうど55年になります。おりしも本年、後期高齢者と言われる年代に入ったところです。

現役時代には大学（早稲田）を卒業すると、国立市にあるNHK学園高校の教諭を務めました。そのときのソ連旅行がきっかけとなって聖教新聞社に入り、やがてラテンアメリカ特派員としてパナマに派遣されました。この特派員だった10年間に北南米大陸の全ての国とヨーロッパの主な国を訪れる機会に恵まれました。

こんな現役時代の影響もあって、定年1年目には横田基地の中にある「セントラルテキサスカレッジ」で英語を再履修、2年目には南スペインのマラガ大学に留学しスペイン語のレベルアップに努めました。

まだ20年から30年はあるであろう定年後の人生への投資のつもりでしたが、おかげさまで現在は英語やスペイン語の講師をしたり、SGIで大誓堂勤行会に来日した海外メンバーのアテンドや海外に出て行く日本人メンバーへの激励やアドバイスをさせていただいております。

またほぼ年に1回、文学紀行の取材で世界の名作の舞台を訪ねてきました。そしてその取材旅費を補うために、語学関係の仕事のほか、シルバー人材センターでの仕事もしてきました。

さて、ただいま一緒に創価菩提樹園のCDを見せていただきましたが、実はつい10日前にインドへの旅から帰ってきたばかりですので、最初にインド創価学会についての報告をさせていただき、続いて横田基地内のアメリカ人メンバーの活動模様、そして最後に私自身の定年後の活動と信仰体験をご紹介します。

<菩提樹園についてのコメント>

（開園までの作業中、カーストにこだわらず、誰でも大切にしていけるメンバーを見て、周囲の農民達がとても好意を寄せ、作業用の道具や機械を貸してくれたという）

**インド創価学会（BSG）の驚異的な発展の秘密** Bharat Soka Gakkai (Bharat=サンスクリット語で「インド」の意味)

今月11日から15日までインドを訪問しました。今回は文学紀行ではなく、首都デリーやアグラにあるタージマハールなどを訪れる観光がメインでしたが、せっかくなのでフリ

一の日にデリー近郊の菩提樹園を訪問、またインド創価学会の名誉副議長のアカーシ・オオウチさん（新人間革命で「大河内の名前が出ています」と、創価大卒でインド在住 20 年あまりになるラジブ・タカハシさんからも話を聞かせてもらいました。

9 月度の本部幹部会でインド女子部長が報告したように、また「新・人間革命」「源流」の章の最終部分に書かれていますように、この数年間のインド創価学会の発展ぶりは驚異的という意外にありません。法人の正式名称は **Bharat Soka Gakkai** (Bharat=サンスクリット語で「インド」の意味)で略して **BSG** と呼ばれています。

オオウチさんの説明によると、1961 年に先生が初めて釈尊成道の地を訪れたときには、インドに永住している学会員は一人もいませんでした。3 度目の訪印となる 1979 年、初めて 40 人が先生のもとに集まった。

先生は「ガンジス川の悠久の流れも一滴から始まります」とメンバーを激励。その指導を胸に BSG は着実な前進を遂げ水かさを増していった。そしてインド社会の発展と符合するかのように入って急速に発展していったのです。

宿命や業の存在を信じるインド人にとって「宿命転換」の法理を掲げる日蓮仏法は非常に魅力的で、創価の思想に触れた人は、日蓮仏法が「生きた宗教」として実感しているようです。さらにインド思想の特色として「師匠」また「師弟の関係」がわかるもとの土壌がある、といったことです。

インド創価学会の最大の特色は青年が多いことです。メンバーの半数は青年部で、学生部や未来部の発展は目覚ましいものがあります。そしてその特徴は、メンバーの全てが英語が出来ることです。インドには数十もの言語があり最も使われている公用語はヒンディー語です。英語は第二公用語。この英語が出来る人というのは一般に上層階級で知識階級の人が多い。

以下は活字にすると問題になりかねませんが、オオウチさんによると、折伏をする対象者は現時点では英語が分かる人に限っているとのことでした。

「それじゃ、差別ということになりませんか？」と以前に私が聞いてみますと「いや、仏法の深い理念を理解させていくには今は英語しかない。もし教学もよく分からないメンバーがどんどん増えていったら組織としても收拾がつかなくなる危険があるのです」というんですね。

結果的に、優秀な人材が入信し社会でも信頼を勝ち得ている。インドはコンピューターではアメリカに次ぐ大国。IT 産業で活躍しているメンバーも多いようです。トップはいなくても大企業の No.2, No.3 で頑張っているメンバーも多いといえます。

実際、5 年ほど前、信濃町の SGI 本部で来日したインドのメンバーをアテンドしていた

「エッ」と驚いたことがありました。彼がこともなげにこんな風に言ったのです。「明日の午後はカルロス・ゴーンに会うことになっています」

カルロス・ゴーンがどんな人か皆さんご存知ですよ。日産のトップ、日本経済界の超実力者の一人です。国内の日産の課長や部長クラスでもめったに会うことは出来ないでしょう。後で分かったことは彼はインドの日産代理店の副所長だったんですね。

コンピューター関係で日本の大企業で研修をしているインド人メンバーもよくいます。インド本国の実態がそのまま反映しているようであらざるのです。

昨年11月には原田会長、青年部のインド訪問団や方面の代表が参加して創価菩提樹園でインド総会や日印青年交流文化祭などが盛大に開催されました。インド創価学会は目標だった十万人を超え、111111人の陣列を達成した。そして先生がインド初訪問の折にブッダガヤの大地に納めた「東洋広布」の石碑が創価菩提樹園に移設埋納されたのです。

「ガンジスの一滴も・・・」から今度は「先駆のインドへ」と頑張っているメンバー。活動の中心は座談会と教学と家庭指導。日本と全く同じですね。でも地区座にはゲスト（新来者）が数人から多い場合には10人も出て40～50人の賑やかな会合になる。

ご本尊授与は入会して6ヶ月後。それまではカベゴンでご本尊受持の時点では、すでに確信をつかんでいる人が多い。

教学は毎月大白の「勝利＜希望＞の経典」を英語で勉強している。私が訪れた前の週の日曜日は「聖人御難事」だった。本幹のビデオも1ヶ月遅れで届く。今月は四国での本幹「紅の歌」のビデオでみんな感動していた、といます。

会館の建設は法律上難しいこともあることから、今では全国で200人ほどが個人会場を提供している。お金持ちのメンバーもいてインド文化会館の収用人員が200人なのに300人が入る個人会館を提供している人もいる、とのことでした。

御書「顕仏未来記」には「月は西より出でて東を照らし日は東より出でて西を照らす仏法も又以てかくの如し、正像には西より東に向かい末法には東より西に往く」（508ページ）とあり、

また「かんぎょう八幡抄」には「月は西より東に向かへり、月氏の仏法の東へ流るべき相なり、日は東より出ず、日本の仏法の月氏へかへるべき瑞相なり」（588ページ）と仏法西還の原理を予言され、末法に南無妙法蓮華経が流布することを予言されています。

小説「新・人間革命」の「源流」69（最終回）で先生は書かれています。「インドの地から、世界広布新時代の大源流が、凱歌を轟かせながら。ほとぼしり流れたのだ」

インドは人口ではまもなく中国を抜き、また経済力でも 50 年後には世界のトップに躍り出るだろう、との分析もあります。

インドの国自体の発展、それに合わせるようにインド創価学会の素晴らしい発展を見るにつけ、今まさに「インドの時代」がやってきつつある、との実感を強くした次第です。

余談ですが、今回の訪問時にインド経済の大転換が起きていました。大型紙幣の 500 ルピーと 1000 ルピー（日本で考えれば 5000 円札と 10000 円札のようなものでしょう）が一夜にして使えなくなった。そのため、銀行の前には 50 人、100 人と列を作り交換に並んでいた。私たちも空港でもホテルでも両替ができず、結構の難儀をしたものでした。

また帰りの機中で下痢になりその後 3 日間ほど苦しみました。友人からは行く前に「水に気をつけろ」と注意され、私も生水には気をつけていた。でも、朝、昼、夜の 3 食ともカレーをベースにした料理。それで胃腸が弱っていたのかもしれない。帰国後に別の友人に報告すると「ああ、それは想定内のことだね」と軽くいなされました。

観光を含めたそんな背景やレポートを今月末、自分のホームページに掲載予定です。ページには文学紀行のレポートや各種のエッセイ等も載っています。よろしかったらご覧になってみてください。

#### 横田基地のサンタメлика支部の活動

ここで、世界が宗教をどう位置づけているか、一例として私がかかわっている国内の外国人メンバーの状況をお話してみます。

それは、横田基地にあるアメリカ人メンバーのグループ「サンタメлика」のことです。『サンタメлика』という名前は、“三多摩のアメリカ”という意味で、メンバーは基地で働くアメリカ人とその家族が中心です。

20年ほど前、私はその支部長に任命されました。それから2年ほどして、サンタメリカは、仏教団体・創価学会の支部の一つとして、横田基地の宗教局に正式に登録されたのです。

この登録によって、サンタメリカ支部はキリスト教やユダヤ教とまったく同等に扱われることになり、次のような特典が与えられたのです。

- チャペル(教会)の施設を、いつでも会合などに使用できること。
- 病院や図書館など公共の施設に、仏教また S G I の書物やパンフレットを置くことができること。
- 基地で発行している新聞や基地の放送に必要なお知らせを載せられること。
- 遠くでの行事に軍のバスが無料で提供されること。

など。

まずは教会、チャペルです。基地のゲートを入れてすぐのところ、広い駐車場を持

った明るい感じの教会があります。200人ほどを収容できる本堂のほか、10人から50人余を収容可能な大小五つほどの部屋があり、どんなイベントに使ってもよいといえます。本堂には、少し高いステージと、本尊を安置できる場所がありますが、ここにはキリストの像も十字架もありません。

30年ほど前から、特定の宗教の本尊を置くのは禁止されることになった。「ユダヤ教でもイスラム教でも、仏教でも必要であれば、その行事のときに本尊を安置して結構です」とのこと。つまり、すべての宗教に公平、中立なのです。

チャペルの牧師は「創価学会は日本最大の宗教団体なのに、どうしてこれまで申請に来ないのか、と思っていた」といいました。更に、学会が本山と手を切ったことも知っており、「そんなことは全然問題じゃない、キリスト教だって分裂に分裂を重ねてきている。時には、教義のために殺し合ってきた歴史だってあるんだから」とまでいうわけです。

私たちは、チャペルを使って会合をもっています。ご本尊を置いて勤行もします。館内は冷暖房が良く効いており、椅子やテーブルもそろっていてとても使いやすい。

基地内での新聞や放送といえば、ある日、私が車で昭島市内を走っていたとき英語のラジオ番組FENのなかで、サンタメロカのセミナーの案内が放送されているのを実際に耳にしました。

「〇月〇日の午後1時から、〇〇センターで仏教のセミナーがあります。どうぞ自由にどなたでもご参加ください。歓迎します」といった内容。

この放送はたぶん200キロ圏内くらいまで届いていたと思います。

また当時、この軍のバス提供による本部見学会を開催しました。

小児科医で空軍の少佐でもあった地区部長が、車両部隊に行事計画とバス依頼申請書を提出すると、20人乗りのバス3台がOKとなりました。運転は軍の仕事で大型免許を持っているメンバーもいます。

中央道から首都高速へ。途中の料金所の通過が自分にとってはまた驚きでした。車はどれも左ハンドル。私は先頭車の右側の助手席に座りました。料金所で車両部隊から受け取った10センチ四方ほどのチケットを渡すと、料金所の係りの人はごく当然のように「どうぞ」と。こうして往復とも3台がパスしたのです。

基地が認めた活動。しかもガソリン代、高速道路料金も含めて費用は、いわば「アメリカ軍もち」とも言えるでしょう。

この本部見学の際、仏教関係の書籍を多数いただき、横田に持ち帰り、基地の図書館に持参しました。

The Writings of Nichiren Daishonin 英訳された御書

The Lotus Sutra 法華経

Choose life トインビー対談

Women against War 女性の反戦出版

等、それぞれ、日蓮大聖人の仏法やSGIを紹介した7冊。これらは間もなく図書館に並びました。現在は基地の縮小とともにメンバー数も減ってきて、私もアドバイザーという立場ですが、メンバーは図書館の会議室で座談会をすることもあります。そんなとき、図書室を覗いてみると先に寄贈した図書もちゃんと本棚に入っているのを確認できました。

こうした扱いは、宗教そのものを大切にす民主的なアメリカの風土、機構からくるものでしょう。ともすると宗教をうさん臭いものと見る人の多い日本とはずいぶんの違いですね。

現在は基地も縮小されメンバーもぐっと少なくなっていますが、これまで述べてきた本質は変わっておりません。この5月にはアメリカ軍の総本部ペンタゴンで仏法セミナーが開かれました。数十人のゲストが参加、そのなかには重要なポジションにいる将校も出席していたようです。機関誌のワールド・トリビューンにも写真入りで堂々とレポートが載っていました。軍の中でも、宗教は人間にとってとても大事なものであると、とらえられている一断面ですね。

私はSGIでの仕事の際、海外留学アドバイザーとして日本から海外に留学する学生への指導もしています。

「ホームステイ先ではそのホースト（家主）に言っていきなさい。「I am a Buddhist」（私は仏教徒です）」と。「SGIメンバーといってもわからないからね。そして『仏教徒は朝晩お祈りをします』」と。つまり朝晩の勤行・唱題のことを言っているわけです。その方が「信じている宗教はありません」などという留学生よりはるかに信頼が深くなる。「うちにはしっかりとした考えを持ったいい子が来てくれた」と喜んでくれるからね、と。宗教のない人というのは逆に信用できない。宗教を大切にす欧米ではそんな傾向もあるからです。

### なぜ海外の人たちが入信するのか

では、なぜ歴史や文化・社会体制の違う海外の人々が仏教をたもつにいたったのでしょうか？

いろいろな要因がありますが、一つは「三証」から見ることができます。文証、理証、現証、という三つの証拠。つまり教えを書かれたものがあるか（文証）、教義が道理に合い矛盾していないか（理証）、そしてその宗教を実践した結果、現実に生活が変わっていくか（現証）、といったものです。

文証で言えば、私どもには御書があります。欧米ではバイブル、聖書が該当しますね。

理証について言えば、仏法は、因果の法則、生命の永遠を根本に説かれており、矛盾はありません。ところがキリスト教では、その出発点は「天地創造説」です。つまり「神

がこの世を作った」との教えが原点になっています。したがって、例えば、自分が今、問題を抱え不幸なもの“神がそう望むからやむを得ない”、“神の思し召しだから”と、念仏にも似たあきらめの生き方になってしまうのです。

「地球は動く」といった天文学者のコペルニクスやガリレオを弾圧してきた歴史もあります。天動説、つまり天にいる「神」が中心でなければ困るわけです。

このように科学と相容れない部分がある。生物学や天文学の発達がキリスト教の矛盾を明らかにしてきたのに対し、科学が発達すればするほど、仏法の正しさが証明されていくと私は思っています。

そして現証とは、宗教を実践した結果の証拠です。ここにいらっしゃる皆様お一人お一人もそれぞれの立場でつかんでいらっしゃると思います。

なぜキューバのような社会主義の国、つまり「物を中心に考え平等に重きを置く、そして基本的には宗教を否定している」国の人々までが仏教を信ずるようになったのでしょうか。それは仮にモノの面で平等になったとしても、人間本来の悩み、家庭不和、病気との闘いなど、生老病死という人間の根本的な悩みは、どんな社会体制に住む人間でも避けられないからなのです。

私たちの唱えている南無妙法蓮華経は、宇宙のリズム・法則であり、私たちの生命のリズム、法則です。わかりやすく言えば、ニュートンが発見した万有引力の法則と同じように、この生命の法則は宇宙に厳然とある「法」なのです。

約 2500 年前、インドに生まれたお釈迦様は、その生涯に膨大な量の教えと経典を残しました。その中で、最後の 8 年に説かれた法華経が最高の教えといわれていますが、実はその法華経の教えの究極が南無妙法蓮華経なんですね。

これを、更に現代的解釈で見ますと――

20 世紀最大の歴史学者といわれたイギリスのトインビー博士は、池田先生との対談の中で、「人間の幸・不幸は、この宇宙の究極の实在とどう関係するかによって決まる」と言っています。

博士は、仏教徒ではなかったのですが、その究極の实在が何であることを明言するところまではいきませんでした。仏法の中から見れば、その究極の实在こそ、南無妙法蓮華経を指していると言えるのではないかと思います。

南無妙法蓮華経を唱え、小宇宙である人間の生命が、大宇宙のリズムと合致することによって、物事が順調に進み、願いもかなっていくわけです。信仰をした人が、自身を変革し、体験をつかんでいくのも、この原理にのっとっている、ということもできます。

白い肌の人、黒い肌の人、褐色の肌の人、そして、英語の人、スペイン語の人、フランス語の人、中国語の人、韓国語の人、すべて同じ南無妙法蓮華經を唱え、「妙法蓮華經方便品第二 ニジセソン・・・」で始まるお経を読んでいるわけです。

詳しくお話しする時間もないので以下は略しますが、これまで述べたような理由から、海外の人々も仏教を求めて入信してくるのです。

それと、彼らの良いところは、見栄とか体裁、外聞を気にせず、よいものはよいと素直に認め実践することなんですね。日本人の場合だと、自分の意志よりも、周囲の目を気にして、なかなか踏み切れない、といった面が往々にしてあります。

### 世界で語られている日本人のジョーク

その例として、ここで、世界で語られている日本人についてのジョークをご紹介しますみましょう。

海に囲まれた島国・ニッポン。世界の中でも特異な存在である日本と日本人についてこんな小咄が流布しています。

ここで皆さんに質問です。

「ある日、大洋を航海していた船が事故で沈没してしまいました。海に放り出された乗客は、遠くに見える島に向かって泳ぎだしました。その中のたった3人だけ、この小さな島に泳ぎ着くことができた。若い男2人と女1人でした。さて、この男2人は女1人をめぐってどんな行動をとったのでしょうか？」

<ちょっと会場に問いかけてみる>

答えは次の通りです。

フランス人：1人は彼女の夫に、もう1人は彼女の愛人になりました。

イギリス人：なんと2人は、彼女を放っておいて、自分たち2人で愛し合い始めたのです。

イタリア人：2人は彼女を自分が手に入れようと、決闘を始めたのです。

では日本人はどうしたのでしょうか？

日本人：2人は、島のどこかに電話がないかとあわてて探しに出かけました。本社に電話して、上司の指示を仰ごうとしたのです。

——この小咄、日本人の行動形態の特徴をよく表わしていると思いますよね。

もう一つ、同じようなよく知られたタイタニックのジョークがあります。たぶん、この会場にも知っていらっしゃる方もいるかと思いますが・・・。

<ジェスチャー大きく>

「いよいよ沈没しかけた船から、男も女も我先にと救命ボートへ避難しようとした。大混乱になろうとしている現場で、婦女子を優先させようとして船長が説得を試みまず」



まずアメリカ人男性に：「キミはヒーローになりたくないか！」（解説）

イギリス人男性に：「あなたは模範的なジェントルマンだ！」（〃）

ドイツ人男性には：「君の国の法律ではそうなっているよ」（〃）

そして日本人男性には：「皆がそうするからあなたもそうした方がいいと思いますよ」

このように、日本人は、まず周りに合わせようとするんですね。周囲の目を気にし、突出することを恐れ、横並びを好み、他人のするように自分もする、という傾向を持っている。日本人は、他人の目を気にしすぎるように思います。それが、いざ何か新しいことを始めよう、また正しいと思われる宗教をやってみよう、という心の足かせになっているような気がするのです。

### 鬱から立ち直り世界文学紀行を

最後に少し私の個人的な体験をお話しさせていただきます。

まず私は、創価学会から、そして池田先生から常々、前向きの生き方を教えていただき、定年後の今も大きく開かれた人生を歩んでいることに心から感謝しています。

最初に述べましたように、定年後、南スペインのマラガ大学に1年間、留学しましたが、帰国して半年後、原因がわからないままうつになってしまいました。毎日が何をやっても面白くない。夜眠れない。昼も心の中はうつろ。判断力、決断力もまったくない。いつ死んでもおかしくないほどの人生最悪のどん底に陥ったのです。

しかしながら幸いなことに、病院での的確な療法と薬の服用、妻の支えと祈り、そして関係者の励ましで1年弱でその苦境を乗り越えることができましたが、今思うにその克服の最大の力は、当時までの40年余りの信仰と、それまでに約5000万偏におよぶ唱題があったからと、確信しています。

病気の間は自分ではとても題目はあげられなかった。やろうとしてもいやで仏壇の前でひっくり返るような状態になってしまうのです。そのまさに“ギリギリの土壇場”というときに蓄積した題目が守ってくれたと思うのです。しかもそれ以来、以前にも増して元気になり意欲的になったような気がします。いわゆる「変毒為薬」です。

そこで始めたのが世界文学紀行でした。10年前に出版400周年となった「ドン・キホーテ」を皮切りに、「名作の舞台を訪ねて」の旅を始めました。「ドン・キホーテ」の紀行は郷里の信濃毎日新聞に5回にわたり連載されました。

その後、「風と共に去りぬ」、「赤毛のアン」、「ハムレット」、「戦争と平和」、「罪と罰」、「レ・ミゼラブル」、など計15作品の舞台を訪ねてきました。

取材旅行には当然お金がかかります。寄稿した雑誌や新聞からどきどき原稿料が入ることもありますが、取材経費の3割もいけば“御の字”でとても旅費をカバーできるような

金額にはなりません。そのために、いろんな仕事をして取材旅費を貯えてきたところです。

鬱を患った後はどこにも仕事はありませんでした。そのとき受け入れてくれたのがシルバー人材センターだったのです。最初に自転車管理の仕事をしたとき、「自分みたいな者がこんな仕事をしていてよいのかなあ」なんて過去の経歴から一瞬そんな思いが脳裏を走ることがありました。でもすぐに、「いや、どんな仕事だって同じ、尊いものなのだ」と考えが変わっていったのです。

“人気職場”で継続は最長 5 年が限度だったので自転車管理を降りて、今は市報の配布や、新しく昭島市が創設したシニア向けの英会話教室の講師をしています。

一方、ボランティア活動でも、NPO法人のTMC(立川多文化共生センター)で三多摩地域に住む在日外国人の支援活動、また目の見えない方のためのテープ機関誌へ吹き込むための原稿の執筆、また地元の中学校で英語の授業のサポートなどを行っているところです。

### 定年後は Having でなく Being

よく、「定年後は Having でなく Being が大事」だと言われています。財産や貯金を持っていること<Having>よりも、今、何をやっているか<Being>が問題。財布にいくら入っているかが問題ではない。心にどんな夢を描いているかが問題、だということです。

昔よく、札幌農学校校長のクラーク博士の言葉を聞かされたものでした。

**Boys, be ambitious!** 少年よ大志を抱け！

古い言葉ですが、私はシニアの皆さんにも訴えたいのです。

**Seniors, be ambitious!** 熟年よ大志を抱け！ と。

池田先生も「夢が、志が人を作る、大きな夢と志は大きな人生を作る」と言われています。ときどき、友人から「清水君は凄い目標をもっているね」と声をかけられることもありますが、そんなとき私はいつも答えています。

「創価学会とは価値を創造する団体。この人生に前向きで創造的な生き方は、すべて創価学会から、池田先生から教えていただいていたものです」と。

そんな私の生き方に共鳴された昭島市の老人クラブの役員の方が、私のホームページの「古希から描く壮大な夢」とのエッセイを読まれて、「同世代のシニアに勇気を与えるものだ」と昭島市老人連合会の会報に転載したのです。

連合会には 54 のクラブがあり、約 4000 人の会員がいます。私はホームページの原稿の最後の部分に「ちょうど今から 20 年後は創価学会の創立百周年の佳節にあたります。こうして 70 代、80 代を精いっぱい働き、楽しみ、社会にも貢献できたという実証を残していきたい」と書きましたが、連合会の会報にもそのままの文言が掲載されていました。

## 宗教は生きていくための基軸

草創期の一時期、マスコミは学会の悪口をさかんに書いたことがありました。「創価学会は貧乏人と病人の集まりだ!」。でも、その批判に対して戸田先生の次の言葉は私にも強い確信を与えてくれました。

「偉そうなことを言っているけど、じゃあ君はそうした貧しかったり病気で苦しんでいる人にどんな救いの手を差しのべてきたんだい!？」

本当にその通りだと思います。一番、悩み苦しんできた庶民に手を差しのべてきたのが創価学会だったのです。これからは創価学会が、学会員が日本のまた社会の柱となり、地域の間人関係を潤していく大きな力になっていくと私は思っています。

そして今、世界 192 カ国地域への S G I の広がったこの時に、私たちの闘いはどうあるべきか——先生が 2 年前の新年の言葉で具体的に指導くださっています。

世界広布新時代の朝は来た。

世界は彼方にあるのではない。

今いる、その家庭が、その職場が、その地域が、絢爛たる使命の舞台だ。

世界広宣流布の中心地なのだ。

さあ、立ち上がろう。元初の太陽を胸に。

## 定年後を輝いて生きるために

最後に私のモットー「ハゲアタマ」をご披露しておきたいと思います。

私は「定年後を輝いて生きる」ために「はげあたま」的生き方を心がけています。

<板書> 「はつらつ」と「げんきに」「あかるく」「たのしく」そして「まあるく」です。

特にこの最後の「まあるく」が大事ですね。人生、すでに甘いも辛いも経験し、角が取れて「まあるく」なってきたはずですから、今さら人間関係でギスギスしてもしようがない。穏やかに「まあるく」いくことです。つまらない顔をしていると、つまらない人生になってしまいます。

題目を唱え、生命に弾むような勢いがあれば、必ず人生も躍動してくる。私はこれからもこの「ハゲアタマ」をモットーに生きていたいと思っています。今、髪のみさみさみの方も、どうぞこのモットー実践だけはお勧めです。人生が明るく楽しくなってきます。

世界への仏法の広がり、文化比較から禿げ頭論へ、話しはあっちこちに飛んでしまいましたが、皆さまの何かの参考となればこんな嬉しいことはございません。

以上で私の話を終わらせていただきます。長時間のご清聴ありがとうございました。

※ 講演の当日、不覚にも体調を崩し、原稿は別の方に代読していただいています。